

# 東京銀座でモウモウ音頭

## 小屋瀬中・修学旅行で葛巻をアピル

春は修学旅行のシーズン。小屋瀬中学校（吉田幸雄校長）では、四月十九日から二十二日まで三年生十七人が東京方面に行ってきた。

今年が目玉は、銀座にある「いわて銀河プラザ」で牛乳などの試飲・販売体験やチラシの配布、モウモウ音頭の踊りで町の宣伝を行うこと。小屋瀬中では初めての取り組みです。

生徒は二十日、午前十時三十分から約三時間、自分たちの町を知ってもらおうと、力を合わせて頑張りました。休憩もとらずに予定

時間もオーバーするほどの熱の入りようだったとのこと。林実可子さんは「販売では、みんな積極的に行動し、たくさんの人に勧めることができた。商品も買ってもらえて良かったし、モウモウ音頭もしっかりできた」と達成感でいっぱいです。同行した吉田校長は「物おじもせず、生徒は想像以上に一生懸命やりました。東京の人との触れ合いもねらいの一つ。ふるさとを見つめ直す機会になったようです」と話しています。



一枚でも多くのチラシを配ろうと頑張った生徒たち。「親切に話しかけてくれて、うれしかった」という喜びの声



くずまき高原牧場の協力を得て、牛乳やヨーグルトの試飲・販売体験が実現。「おいしいと言われ、うれしかった」と話す生徒たち



## Along The Way



### 道の途中で 21

クリス・シクルス  
(指導主事助手・23歳)

### 旅で見つけた葛巻の良さ

わたしは、秋田から金沢までの日本海側の街を3月25日から旅行することになり、立ち寄る県で有名な食べ物や地酒に挑戦してみよう、日本の伝統的な民宿や旅館に滞在しようと思いました。

秋田では、きりたんぼや地酒を味わいました。豪雪地帯の新潟や越後湯沢では、2センチもの雪が道端に積もっていて、多くのスキー場はまだ営業していました。

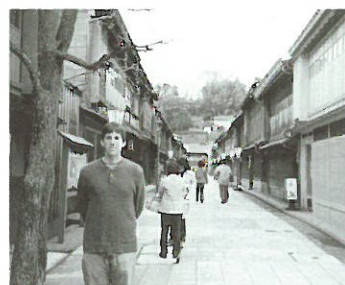
次に、石川県の能登半島にある輪島に行きました。ここでは、民宿に滞在し、その地域の魚介類や地酒を地元の

人と語り合いながら楽しむことができました。自転車で巡りながら、海沿いの写真を撮ったり、日本海を臨む温泉に立ち寄りしたりしました。岩手のことを思い出す風景にもたくさん出合いました。気温は岩手より暖かく、日本海の海岸沿いは岩手の太平洋沿いとは違い、断崖や岩のビーチではなく、多くは砂浜が広がっていました。砂浜を歩いたり、沈む夕日を見たりすることはすばらしかったです。

金沢では、友人と一緒に侍や芸者がいる所を訪れたり、旅館に泊まって料亭で食事をしたりしました。日本らしい伝統的なものに触れることができました。

4月3日の最終日は、忍者寺と呼ばれる隠し扉がある大きなお寺に行きました。その庭で花見団子を食べたり、抹茶を飲んだりしました。

兼六園では、梅の花が見ごろを迎えていました。伝統的な日本とモダンな日本とが素敵に融合しているので、わたしはとて



金沢の日本情緒あふれる茶屋街の前でパチリ

しはとて気に入りました。

金沢は歴史に誇りをもち、新たな建築物のために趣のある家や通りを壊すことは急がないように感じました。都市にとって観光客を魅了し文化を維持するのに、この姿勢はとて大切だと思います。

旅を終えて、日本で人が求めているゆったりとした生活やきれいな空気、開かれた環境、おいしい食べ物や温かい心の人々、すべてが葛巻にあるということ、わたしは再認識することができました。